

科目名		医用画像基礎読影学			分野・選別・単位数	共通科目	必修	2単位
担当教員		◎教授 古井 滋 教授 岡本孝英 准教授 太田 樹 講師 横塚記代					授業方法	講義
課程		博士前期	配当年次	1年	配当学期	後期	配当コース	診療放射線コース 医学物理士コース
授業の概要		医療の現場が求める適正で精細な画像を診療放射線技師が作成、提供するために、画像解剖学や病態学の知識を含めて、読影の基礎を学ぶことは重要なことである。 そこで日常診療の読影を行っている医師の下で、読影の基礎、身体各部位の臨床における読影に関する事項、並びにこれらを通しての病態における適正なポジショニング、撮影条件、画像処理などを学修し、診療放射線技師として適正な画像作成法を修得する。						
授業の到達目標		①基本的な症例の画像に関して説明できる。 ②画像の質に関して正しく評価できる。						
授業計画	回数	担当者			行動目標			
	1	古井 滋	教 授	各放射線診断装置について説明できる。				
	2	古井 滋	教 授	脳神経の読影ポイントについて説明できる。				
	3	古井 滋	教 授	頭頸部の正常画像解剖、側頭骨の疾患、眼科の疾患について説明できる。				
	4	古井 滋	教 授	鼻・副鼻腔疾患、咽頭喉頭疾患、唾液腺疾患、甲状腺疾患について説明できる。				
	5	古井 滋	教 授	呼吸器の正常画像解剖、肺がん、肺感染症、無気肺について説明できる。				
	6	古井 滋	教 授	縦隔疾患、循環器の奇形、後天性心疾患、動脈静脈疾患について説明できる。				
	7	横塚 記代	講 師	乳腺の正常画像解剖、乳がんについて説明できる。				
	8	岡本 孝英	教 授	消化器の正常画像解剖、食道疾患、胃潰瘍、胃がんについて説明できる。				
	9	岡本 孝英	教 授	大腸がんとポリープ、炎症性腸疾患、肝臓・胆・膵疾患について説明できる。				
	10	太田 樹	准教授	泌尿器の正常画像解剖、尿路結石、水腎症について説明できる。				
	11	太田 樹	准教授	腎がん、副腎疾患、前立腺疾患について説明できる。				
	12	横塚 記代	講 師	婦人科の正常画像解剖、子宮の疾患、卵巣疾患、産科領域について説明できる。				
	13	岡本 孝英	教 授	骨軟部の正常画像解剖、骨軟部腫瘍、外傷、関節炎について説明できる。				
	14	岡本 孝英	教 授	脊椎・脊髄の正常画像解剖、腫瘍、外傷、変性疾患について説明できる。				
	15	岡本 孝英	教 授	小児の正常画像解剖、各臓器の疾患について説明できる。				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 回次の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。						
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。						
	【必要時間】	該当期間に30時間以上の予復習が必要。						
教科書		土屋一洋監修 画像診断マスターノート メジカルビュー社						
参考書		適宜、指示する。						
評価方法		レポート20%、授業内課題80%						
その他履修上の注意事項								